

(様式1)

## 自己評価票

2F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設創設者が理念として掲げているいつつの柱の第一が「ご利用者が主人公」であり、「尊厳を保つ」「いきいきとした生活」「認知症の進行の防止」と併せて、「地域社会と共に」であり、地域のボランティアを受け入れたり、地域自治会の子ども会を行事に招待したり等共同生活に努めている。</p>	<p>各フロアーとも自治会とのお付き合いと共に、地域社協が主催する行事にも積極的に取り組んでおり、参加した入居者も満面に喜びを現し楽しんで頂いている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>フロアー、スタッフルームに掲示し、常にスタッフが利用者と接する際の心構えにしている。定例のフロアー会議の最初に職員が唱和し、支援課題を議論する時の原点としている。</p>	<p>職員も行動の規範として、常に、五つの運営理念を心に留めている。管理者も、現場の運営に当たって自らも率先し、職員と共に理念から逸脱の無いよう点検している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者の健康悪化や事故発生時の家族説明、その際の家族からの疑問や不安に対して、当施設の運営理念を説明する絶好の機会として位置づけ、社長を先頭にセンター長、管理者が時間を惜しまず説明し、家族の安心と共感を得ている。</p>	<p>入居者の入院が長引き、家族がホームに戻れるか心配された時も、一刻も早くホームに戻る方が認知症の進行の防止に繋がることを説明し、通常ではホーム帰還が困難と思われる程の状態であったが、リハビリを含めた介護サマリーを入院中の病院に提供して頂き、それに基づくチームケアにより介護体制を構築し退院を実現してきた。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の貸し農園の住民からキュウリ等の野菜の差し入れを頂いたり、看護師資格を持っている隣の奥さんにパートで看護師として就労していただく等、地域からも好意を持って近隣づきあいを行って頂いている。</p>	<p>施設の属する町会の長寿会の活動は、あまり活発でないと聞いているが、社会福祉協議会の行事や近隣の企業が主催する「夏祭り」に参加させて頂いている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>施設の所属する長寿会の活動はあまり活発でないと聞いているが、代表者の方には、運営推進会議の地域代表としてご協力いただいております。ソフト面でのバックアップ協力を頂いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターを軸とした市内7ブロックの地域会議には全て出席し、地域内の事業者間の協力関係を大切に、更に、地域会議に出席される民生委員や福祉委員・町会役員との交流にも努めている。		介護保険の導入により、高齢者福祉が社会保険として展開され、保険料納付の反対給付として、権利として高齢者介護サービスが給付されるようになってから、民生委員と高齢者との繋がりが希薄になりつつあるように見受けられる。非常災害時の地域ネットワークの構築の重要性が再認識される一方で、個人情報の関係から情報の共有化が遮断されている感が否めない。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価のポイントや課題を、新しい職員に伝達する機会が少なくなっている。運営理念を大切にして日常業務に精励しているので、結果として大きく外れる事は無いと思うが、目的意識的に自己評価・外部評価を考える事により、運営理念の深みを会得したい。		日常の業務マニュアルを守り、運営理念を支柱として、入居者支援に努めれば、結果として、自己評価・外部評価の意義から逸れる事はないと思うが、評価結果を全員で確認し、取り組みの深みを身につけるように心掛けたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況の報告、各フロア独自のユニットケアの取り組みを通して、入居者の新しい楽しみや能力を発見した時の喜び等をご家族様に報告したり、ご家族との協同作業が認知症のアセスメント(センター方式)にとって、介護サービス計画の作成上、大変重要である事を訴え協力を求めている。		ユニットケアの特長を活かしたフロア毎の独自の取り組み報告が、日常の全体会議では味わえない家族の反応を呼び、それが職員の刺激となり、入居者の能力再発掘の課題追及をしようと職員から提案等が出されている。
9 市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村は集団指導等や情報公開等に軸足を移し、上からの指導責任の重圧に苦心されておられるようだが、今まで以上に、目線を事業者のレベルに落として頂き、気さくに事業者を回る心遣いが欲しい。		指導・被指導の関係だけでなく、制度開設当初の様に、事業所との協同作業で、地域密着型サービスをどのように構築し、展開をしていくのかを考えて欲しい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、財産管理・後見人等の指定をしておられる入居者が2名居られるが、入居者全体の高齢化の進行や、老々介護の実態、更には、認知症状の特性から、現在は、発生していないが金銭管理のトラブル発生も回避できない問題として、家族だけでなく、職員を含めた制度理解の浸透、手軽な利用を可能とする制度普及が求められる。		家族と施設・職員との信頼関係を基盤に現時点では、小口現金は施設で、財産は家族が責任を持つ体制になっている。家族の高齢化と併せ、親族であることを持って、即、後見人にスライドできない法制度だけに運用の簡素化が待望される。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ストレートな身体拘束はもとより、ドアの施錠もなく、入居者への抑圧感・閉塞感に配慮し、ストレスが溜まらないよう心掛けている。昨年法制化された高齢者虐待防止法も事業者側のスタッフが問題を発生させる事の無い様、運営理念にある「尊厳」を肝に銘じ、未然防止に努めている。		当社保設のデイサービス利用者の家庭で発生した虐待事例だが、市に報告した処、当社ケアマネで事例検討を行う様の指示に止まった。止む無く別居の家族を呼びそこからの説得で再発防止に努め表面的には沈静しているようだが、再発の危険性は解消していない。今回の市の対応は明らかに、通報者に問題可決を迫っており、通報者を守る新法の趣旨に反し誤りである。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前段の相談・見学の段階でアウトラインの理解を得ているが、その段階で、他のホームを見学された方の当ホームの入所希望者が非常に多い。実際の契約段階でも、入居の程、重要事項説明書と契約書で時間を掛けて説明し、十分納得を頂いたうえで、契約を交わしている。		併設のデイサービスで無料体験サービスをご利用頂き、グループホームの計画作成担当者・管理者等がそのデイでの一日の生活を様子観察をしながら相談に応じている。これは、利用者にとってもいきなり新施設に入所するのではなく、わずか一日であっても新環境に順応する上での配慮に繋がっている。
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、担当職員やリーダーが必ずご家族とお話し、面会前のご利用者の健康・生活状況を報告させて頂き、お帰りの際のご家族のご要望・ご意見は、ケース記録に記載すると共に、爾後の支援に活かすようにしている。		苦情相談組織図を施設内に掲示する共に、面会に来られた御家族様からのご意見・ご要望も気軽に意思表示出来る様、意見箱の設置も考えているが、現時点では、ご家族の皆様から忌憚りの無いご意見を頂木、十分にこみゆにけーしょんをが図れていると考えている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	何か異変があった時だけの報告に止まらず、日常の暮らしぶり、イベントでのエピソード等を定期的にお手紙や電話でお知らせしている。その他請求書の送付時等定期的に、「お小遣いの収支報告書」、3ヶ月毎の「ケアプラン」の報告を行っている。		「お便り報告書」等、チームケアを担うスタッフ全体が利用者の情報を共有化出来る様、回覧する等、職員間に認識やサービスの質の不均衡が生じないよう業務連絡等に注意を払っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、家族へのお便り、機関紙「プラティア通信」、更には、運営推進会議等のさまざまな機会を通して、ご家族からのご意見・ご要望をお聞きしている。		家族を施設に預けている立場を我が身に置き換えた場合、利用者が何処まで本音で希望を意思表示できているか、利用者の複雑な心境を職員一人一人が親身になって考え、「気付き」を大切に、職員同士が注意しあえる雰囲気をつくりたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、フロア毎のフロア会議、2・3階の全体会議、リーダー会議等を行っており、職員からの提案・要望を聞いている。</p>		<p>各事業年度ごとに事業計画や事業報告を年1回作成し、一年毎の重点目標を設定し、メリハリのある事業運営を目指したい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>複数の事業所を抱えながら、経営者は毎日1回顔をだし、センター長・管理者と意思疎通を図ると共に、フロアに上がり書類に目を通し、利用者の動きや状況の変化はもとより、職員の状況変化にも留意し、細やかな組織運営を行っており、社内のコミュニケーションや風通しも良い。</p>		<p>4週8級、週40時間の労基法の基準を最低に、4週8休の内、月二回の希望休も入れた勤務シフトをリーダーに作成させており、利用者本位の支援を行う上での職員のモチベーションの高揚にも配慮している。9人の利用者に常勤換算8名を確保し、利用者の急の要望にも応える事の出来る柔軟な体制を引敷いている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今日の社会情勢が介護職に厳しく、職員の定着性は決して高くは無いが、当社の運営方針が「利用者本位」であることについて、職員の理解は図られている。職員も安易に過酷な勤務体制であるとは捉えておらず、利用者本位とチームケアの徹底により、効率的な勤務割を柱に協力し合っている。</p>		
<b>5.人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画、階層別の研修を計画的に実施するよう努めている。</p>		<p>結果として、計画通りに進んでいない面もあるが、少しずつ着実に進めており、今後とも職員のスキルアップを図って生きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東大阪市居宅介護支援事業者連絡会、八尾市同事業者連絡会、東大阪市地域包括支援センター7地域別会議、その他社会福祉事業者対象の各種研修会等に積極的に参加する他、新規採用者を対象にした認知症研修を企業内で行っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が直接経営者に意見具申するフランクな雰囲気があり、車内の風通しも良く、問題を一人で抱え込んで、バーンアウトしないよう、未然に問題職員を把握するよう、経営者が率先して取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力が正当に評価される人事考課を実施し、モチベーションの向上に勤めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまで、本人と直接話をじっくり聴く機会を設け、不安なく入居して頂けるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・ご家族への理解を深め、信頼関係を築く為、電話や面会・面接・訪問等、積極的に行っている。		
25	初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当社併設事業所のデイサービスの無料体験をご利用いただき、グループホームの計画作成担当者やリーダーが入居希望者のそこの一日の生活を見せていただき、その方の支援の課題をつかむと共に、入居予定者の環境適応の機会の一つにして頂くよう、ご本人・ご家族に進めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>26 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の意向に添い無理強いすることなく、信頼関係を築き乍ら、安心してサービスを利用して頂ける様、ご家族とも相談しながら工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>27 本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者が生活を共に過ごしていく中で、利用者の方にもいるんな役割をして頂いています。料理などは利用者の方に教えて頂く事が多いです。</p>		
<p>28 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族便りや面会などを通して、本人の様子をお伝えすると共に、ケアプラン作成時、センター方式記入時に要望などを取りいれて頂く。</p>		
<p>29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>行事などをに協力して頂き、参加をお願いし、家族様と本人の思い出作りをして頂く。</p>		
<p>30 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出援助を通し、馴染みの食堂や散髪屋、職場や自宅、生まれ育った地域や思い出の場所等へ積極的に出掛けられるよう支援している。</p>		
<p>31 利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>孤立の無い様に、必要なところは、職員が間に入り、利用者同士をつなぐ役割を担っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院や他施設へ移られ、契約が終了しても、家族と連絡をとり、ご様子等を伺っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>全職員が利用者の方との普段の会話の中から希望を聞きだすようにしている。それが本人様の本意なのか分からない場合は家族の方に確認をとるようにしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ホームに来られる以前の生活歴に関しては家族の方に協力して頂き情報を集めている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>全職員が日常のさりげない会話の中で利用者の方の心身状態を把握するように努め、場合によっては請え掛を行い、散歩等をし、気分転換をして頂いている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会来てくださった際や家族便りの際などに、本人を含めケアプランに導入したい事項を伺っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の支援を通じたケアワーカーの気付いたニーズをセンター方式のアセスメントに吸い上げ、それを基に計画策定者がプランを立案し、家族に送付の上、意見を記入、若しくは、電話で協議して、計画書を調整している。又、病気や怪我による状態の変化に応じた計画の見直しも適宜行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の方の個別の介護日誌を記録し、一日の過ごし方、気持ちの変化などを職員全員で共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	四季の変化をホームの生活に取り入れるため、四季の食材を取り入れたメニューや衣替え、行事、お出かけ等、に積極的に取り組む他、利用者さんの希望を取りいえた支援を行うよう心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に数回の割合でレクリエーション活動時などにボランティアの方をホームに招き、協力して頂いている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	買い物、外食、散歩等、施設外の社会に触れる機会作りには、配慮しており、併設事業所であるデイサービスの昼食を取りいれたり、デイサービスの行事にも参加をして頂きながら、社会的な関わりの機会を広めるようにしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが地域内にあるグループホームを視野に入れた活動や交流を深める取り組みが出来るようになっていないのが残念だ。専門事業所として任せて頂いているというより、実態をご存じないのが現状で、そこに何かを期待するようなレベルに至っていない。		
43 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一回の割合でホームの往診に来て頂いており、それ以外でも発熱などの急変の際にも電話にて指示を頂いたりしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の一部を変更し、認知症に見識の深い医師との新たな協力体制の再構築を図っているが、個別の疾病や高齢者特有の疾病にに対しては、専門的に見てもらえるが、認知症の結果として起きる周辺症状については、治療の対処となり難いため、職員のチームケアで乗り切っている。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の配置基準が無い為、運営費の持ち出しで、当フロアに看護師を一人試験的に配置している。怪我や急病時以外の生活支援のエリアにおいても、看護職の深みのある対応は、利用者に精神的安定をもたらす。利用者を病人扱いする為でなく、安心と安定をもたらす為にグループホームにも看護職の配置基準を配慮して欲しい。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の方が入院された場合、週に一度くらいの割合で職員を面会し、その都度情報を共有している。病院関係の方とも、いつ頃どのような状態で退院できるか等、電話などで情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にあった時間で起床して頂いている。朝食や昼食なども食べたくない場合は、遅食や代替メニューをお出しして対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時に本人の好きな服を選んで頂いている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の方の潜在能力を引き出すという意味でも、食材を包丁を使い、切って頂いたりし、準備に参加してもらっている。片付けも食器洗浄など利用者の方の意欲がある場合はして頂いている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日中の水分補給においても、ジュースやコーヒー、炭酸飲料などを取り揃え、その都度利用者の方が選べるようにしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者の方の排泄パターンを理解し、尿漏れやパッド内に排尿する前にトイレ誘導をし、その方の不快感の軽減やコスト削減に取り組んでいる。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を昼食後と夕食後に設定しており、好きな時間帯で選べるようにしている。希望される方に関しては、一日2回の入浴も実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している	就寝時間は特に設けず、夕食後 自由な時間でお部屋に戻って頂 いている。日中の疲れているご 様子などがある場合は、声掛け し休んで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの 支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる	車で買い物に出掛ける時は、必 ず利用者の方に声掛けをし、同 行して頂いています。気晴らしと しては、徒歩や車椅子などでホ ームの周辺を散歩しています。		
60 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	各利用者に小口現金を設けてお り、個人の買い物の際は、そこ から利用者の方に支払って頂 いている。		一部の方に関しては、ご自分 で財布を持たれ、常に持ち歩 いておられます。
61 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援している	時間帯は、設定せず利用者の方 の希望がある場合は、ホーム 近辺の散歩や車を使用しての ドライブなどを行っています。		買い物に行った際には、野菜 や肉などを利用者自身で選ん で頂いている。
62 普段行けない場所への外出 支援  一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別あ るいは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、 支援している	2ヶ月に1回程の割合で、お芝 居の鑑賞やお寺の拝観等に出 かけ、普段とは違う雰囲気 を味わって頂いています。		遠方で会っても、本人が望 まれるなら希望が叶うよう 支援していきたい。
63 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している	利用者からの希望がある場合 は、職員が家族へ連絡をし、 その後本人様と家族様が話 せるように取次ぎを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族様や知人の方が面会に来られた際は、各個別のお部屋へ椅子などを持ち込まれ、お話し易い環境作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束となりうる禁止行為を正しく理解しており、それに基づいて日頃のケアに取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やフロアの出入りは、日中は施錠していない。夜間においては、防犯上フロアの出入り口は施錠している。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の方が他のフロアへ行かれた際は・モニターなどを通して見守りを行い夜間は、間隔を空けて安否確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的には、職員の見守りのもと、針仕事や調理での包丁の使用など行っている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	フロア内の家具の配置など定期的に職員間で話し合い事故要因となるものがある場合は、他の物へ変えていき、安全な環境作りをしている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の方の急変時の対応としては、マニュアルを作成し、スタッフ室に置き、冷静に対応できるようにしている。		
71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内に設置してある火災報知器の定期検査の実施や、非常口が出来ているか日頃から確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスク管理は、ハード・ソフトの両面から施設の最低責任として押さえながらも、一般家庭でも日常的に起こりえる軽微なリスクの全てを全て転ばぬ先的に手出しをするのでなく、利用者の出来ない事を放置しない様、自立支援を基本にした見守り支援を行い、結果起こった軽微な事故についても、再発防止の視点を解明する為、報告書を記録として残し、家族にも納得のいく爾後説明に心掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の方に体調の変化があった場合は、速やかに往診のDrへ連絡を入れ指示を受ける。その情報は業務日誌の要観察者の欄で申し送りを、全職員で確認共有をしている。		常に、特変事項に対応できる様に、職員は利用者の観察やコミュニケーションを怠らない様に注意し、気付きの感性を大切にしよう心掛けている。
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の方のお薬手帳にて、その内容については、全職員が理解している。変更があった場合は、個人別の介護日誌に記入し申し送りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	必要な利用者の個別排泄状況を確認している。水分を沢山摂って頂いたり、ヨーグルトなど整腸作用のある乳酸菌製品などを提供し、便秘の予防に努めている。		下剤等で排便を促すのではなく、散歩や体操などで身体を動かしたり、繊維質の多い食べ物を摂って頂いている。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食事の後、利用者の方に声掛けをし、うがい、義歯洗浄、歯磨きを行っている。週に1回、訪問歯科を行い、口腔ケアをして頂いている。		臭いや汚れが落ちにくい義歯の方は、週に2回ポリドントを使用している。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別でごはんの量を調整している。利用者の方の好き嫌いを把握し、嫌いなおかずは、違うものを調理して提供しています。		毎日献立を記入しているので、バランスの取れた食事を提供できる。意識して水分補給を心掛けている。
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルスなどの細菌に対する予防策として、塩素系洗剤による消毒(手すり・トイレのドア)や、ペーパータオルの使用を行っている。		薬剤を入れた床のモップ掛け、利用者様には毎食前の手の消毒、清潔なお絞りを使用している。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の食材は常にチェックし、賞味期限切れなどに注意している。又、まな板などは、ハイター消毒し、衛生管理に努めている。		使用した食器などは、洗浄後高温の乾燥機にて殺菌消毒をしています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>ホーム周りに花や植木を置いたり、建物内にも季節に応じた物を飾り、心の癒しや季節感を目や五感で味わい、楽しんで頂く工夫をしている。</p>	
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分は常に清潔に保ち、リビングニは、外出した際の写真などを飾り、見て楽しんで頂いている。トイレ等にもわかりやすい表示をしています。</p>	<p>リビング横の窓の外はテラスになっており、室内からもテラス風のベランダ越しの概観に広々とした畑が広がり、見晴らしの良い比較的静かな環境です。リビングはテラス風のベランダがある陰で、直射日光は入りませんが明るい部屋です。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓以外にも長いすやソファーを設置し、お好きなところへ座れるようにしている。</p>	
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、個室になっており、そこで使う家具などは本人様が使い慣れた物を持ち込んで頂いている。</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度調節は入居者の方が快く感じる温度に設定し手織り、夏場の場合は、冷房でも27度～28度で調節している。一日に2 蚊ら回は空気の入れ替えをし、換気にも務めている。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		2F
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)